

新型コロナウイルス感染症の流行で、カミュの『ペスト』新潮文庫版が100万部以上売れていると言う。イタリアでは、ミラノにある高校の校長が生徒へのメッセージで、『いいなづけ』や、ボッカッチョの『デカメロン』を読んで、理性を保てと呼びかけている。『デカメロン』では、10人の話者が1348年のペスト禍を避けてフィレンツェ郊外に集ったとの前置きの中で、ペストの惨状を述べられているが、全100話の中にはペストへの言及はない。『いいなづけ』の大筋は、いいなづけの仲にある田舎者男女、レンツォとルチアが、地元の悪徳貴族ドン・ロドリゴによるいじめをのりこえ、クロストフォーロ神父の助けなどを得て、最後には結ばれる、というもの。本文のなかに1629年のペスト流行の惨状が描かれている。レンツォはペストにかかるも治り、ドン・ロドリゴはペストで死ぬのだが、その舞台となる土地はミラノや近くのコモ湖やベルガモなどで、今回イタリアで新型コロナウイルス禍が最も広まった地域と同じである。この点も、ミラノの高校の校長が言及した背景にあるのではなかろうか。

原題『I promessi sposi』は英語に直訳すれば、The promised spouses となるが、正式な英文題名は、The Betrothed（原義は be + trusted）である。マンゾーニが書いたのは1821～1827年。物語は更に200年前（今から400年前）のこと。けれども、17世紀のペストなどの描写は歴史書を丹念に調べて書いたもので信憑性が高いという。イタリアの国語教科書で、昔から取り上げられている理由は三つあるようだ。舞台のロンバルディーア地方が、17世紀にスペイン支配下であり、マンゾーニが書いた当時はイタリア統一前でオーストリアに支配されていたことと二重写しになっていること。また、ウンベルト・エーコ（日本では『薔薇の名前』で有名）によれば、マンゾーニが全イタリアの人に理解してもらうために、ミラノ訛りのないフィレンツェの言葉を勉強して洗練された文章を書いたこと。さらに、本書がイタリア最初の本格的長編小説であることが上げられる。

さて、ペストの話である。17世紀のペストが神聖ローマ帝国の傭兵たちがもちこんだ、という話は、第1次大戦中に、スペイン風邪が、米兵により欧州にもちこまれ、帰国した米兵により米国での第2波がもたらされたことを想起させる。（スペイン風邪という呼称は、大戦中に交戦国がひた隠しにした流行性感冒を、中立国スペインだけが公表したために生まれたとも、交戦国がスペインのせいにしたかったためとも言われている。）

『いいなづけ』原著では、長椅子に座ろうとして塵を払った老人を「ペストを塗りたくった」として群衆が叩きのめして連れ去った話、外国からの旅行者と分かる服装のフランス人の若者3人が、ミラノのゾーモの壁を大理石の感触を確かめたくて触ったら、これも「ペストを塗りたくった」として群衆につるしあげられた話が紹介されており、関東大震

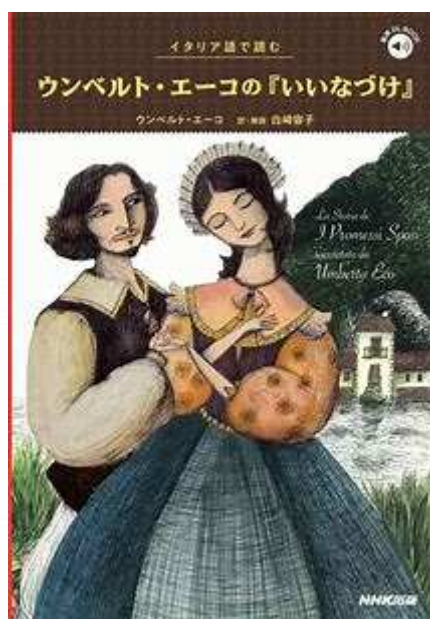
災直後の朝鮮人虐殺を想起させる。それどころか、現在の新型コロナウイルス感染者への不当な差別や、蔓延防止策に従わなかったものへの過剰な個人バッシングと相通ずると感じさせる。ペストの恐怖から逃れるため、お偉方が民衆に「神のご加護を得るため」の行列を民衆に進めて濃密接触をさせてしまった事実は、コロナウイルス発生初期に、いくつかの宗教団体の集まりが感染を拡大させたことを思い出させる。『いいなづけ』によると、17世紀ペスト蔓延に対して、早めの予防・防御・治療・消毒の策をとらなかった人達も、「自分の責任」を認めず、他に責任を見つけようとした、という。

中国が、覇権国家の威信のため、新型コロナウイルス情報を隠していたことは責められるべきである。だが、中国に補償を求めるとか、WHOへの拠出金を止めるという、自国の対応不備から国民の目をそらせる米国大統領の態度も困ったものだ。中国には腹が立つが、今は国際協力が必要なときだろう。オバマ大統領時代に設置した疫病対策委員会を、トランプ大統領は就任直後に解散させてしまったそうだ。2019年まで安倍政権は病床数を減らす政策を進めていた。新型コロナウイルス発生後も、日本政府・東京都はオリンピックと命のどちらを優先するのか分からないような態度で対応が遅れた。今も日本では「三密」回避要請ばかりが強調され、検査数を増やすこと、医療体制を充実させることが後回しになっていると思う。早急な改善を望む。

『いいなづけ』は、河出文庫全3巻と岩波文庫『婚約者』全3巻があるが、いずれも長いので、興味のある方には、NHK出版『イタリア語で読むウンベルト・エーコの「いいなづけ」』を薦める。伊日対訳だが、分量はマンゾーニの原著翻訳版の五分の一ほどである。



I PROMESSI SPOSI 原著



エーコによる縮約翻案の伊日対訳本

以上